

# 2008年度(2009年3月期) 決算説明会



2009年5月18日  
大正製薬株式会社  
会長兼社長 上原 明

# 2008年度連結決算：概要



## 2008年度通期：損益の概要

(億円)

	07年度	08年度	前期比増減		対予想*
売上高	2,497	2,562	+66	+3%	+12
SMG*	1,527	1,611	+85	+6%	▲2
医薬事業	970	951	▲19	▲2%	+14
営業利益	370	379	+10	+3%	+14
経常利益	419	399	▲20	▲5%	+24
当期純利益	250	88	▲162	▲65%	+23
EPS(円)	84.0	30.0			

注：数字は億円未満四捨五入

\* SMG：セルフメディケーション事業

\*1月発表の予想対比

# 2008年度の取り組みと結果



## ・ セルフメディケーション事業

- 価値訴求型の営業活動を推進
- 新規薬効・新規カテゴリー等に対する取り組み強化
- 新販売制度に向けた準備と対応

→ドリンク剤の苦戦はあったものの、リアップ、パブロン、第1類を中心とした新製品の寄与等により増収

## ・ 医薬事業

- クラリスを中心とした既存品の売上確保
- 注射用抗菌薬ゾシンの発売と早期育成
- 経口抗菌薬ジェニナック: 発売2年目の拡大

→抗菌薬市場におけるシェアアップを実現できた

# 2008年度の市場動向



- ・ OTC医薬品市場は前期比1%減
  - 伸びた薬効群 漢方薬、花粉症関連、毛髪用剤など
  - 天候の影響もあって、ドリンク剤は前年割れ
  - 第1類医薬品・新規薬効群の新製品が寄与
- ・ 医療用医薬品市場は前年比3%増
  - 当社の主力市場である抗菌薬は市場全体で7%減（経口 6%減、注射 8%減）

\*Copyright 2009 IMS ジャパン(株)  
出典:IMS JPM 2008年4月～2009年3月  
無断転載禁止

# 2008年度通期：売上高・利益の増減要因

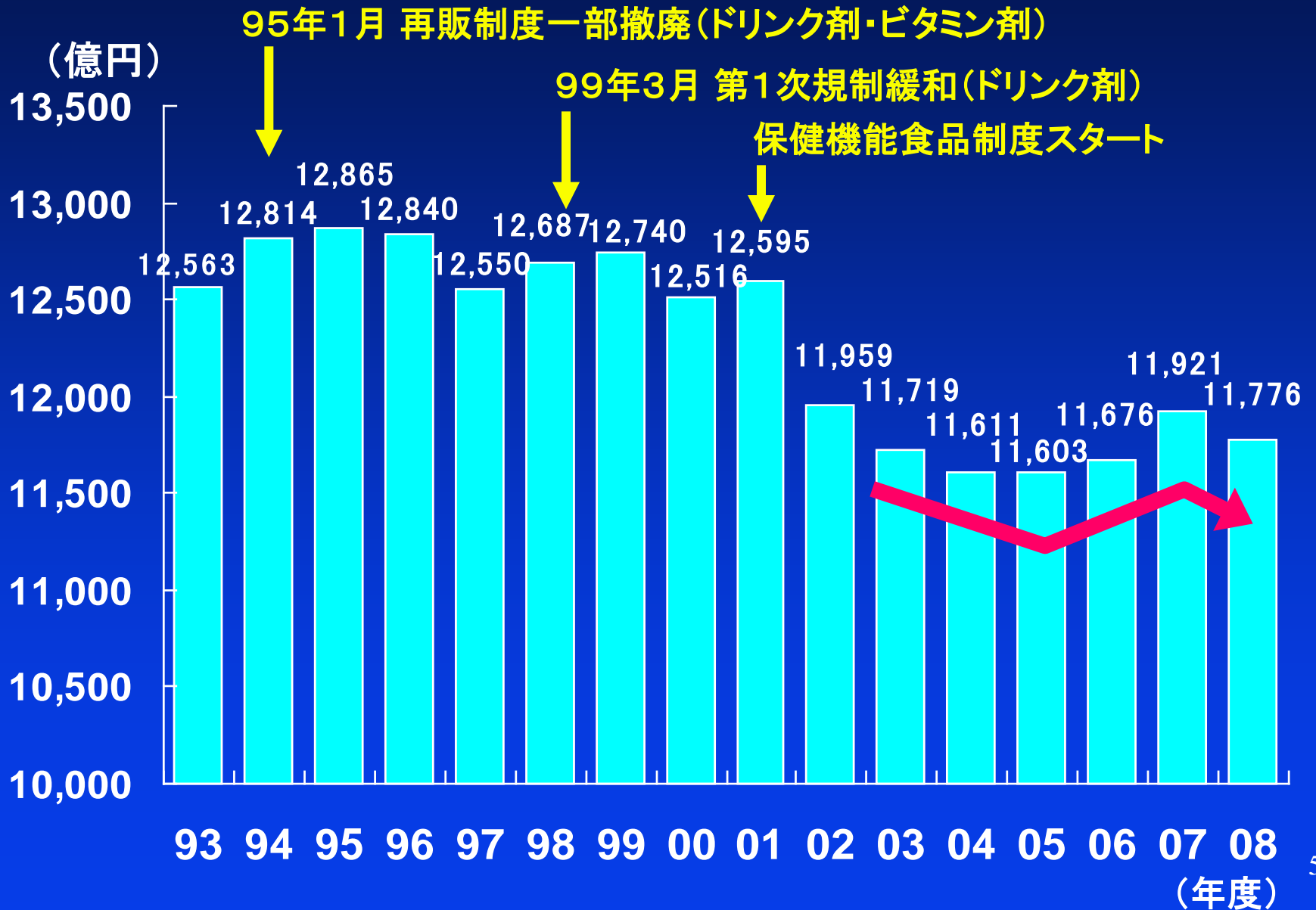


(前期比増減額)

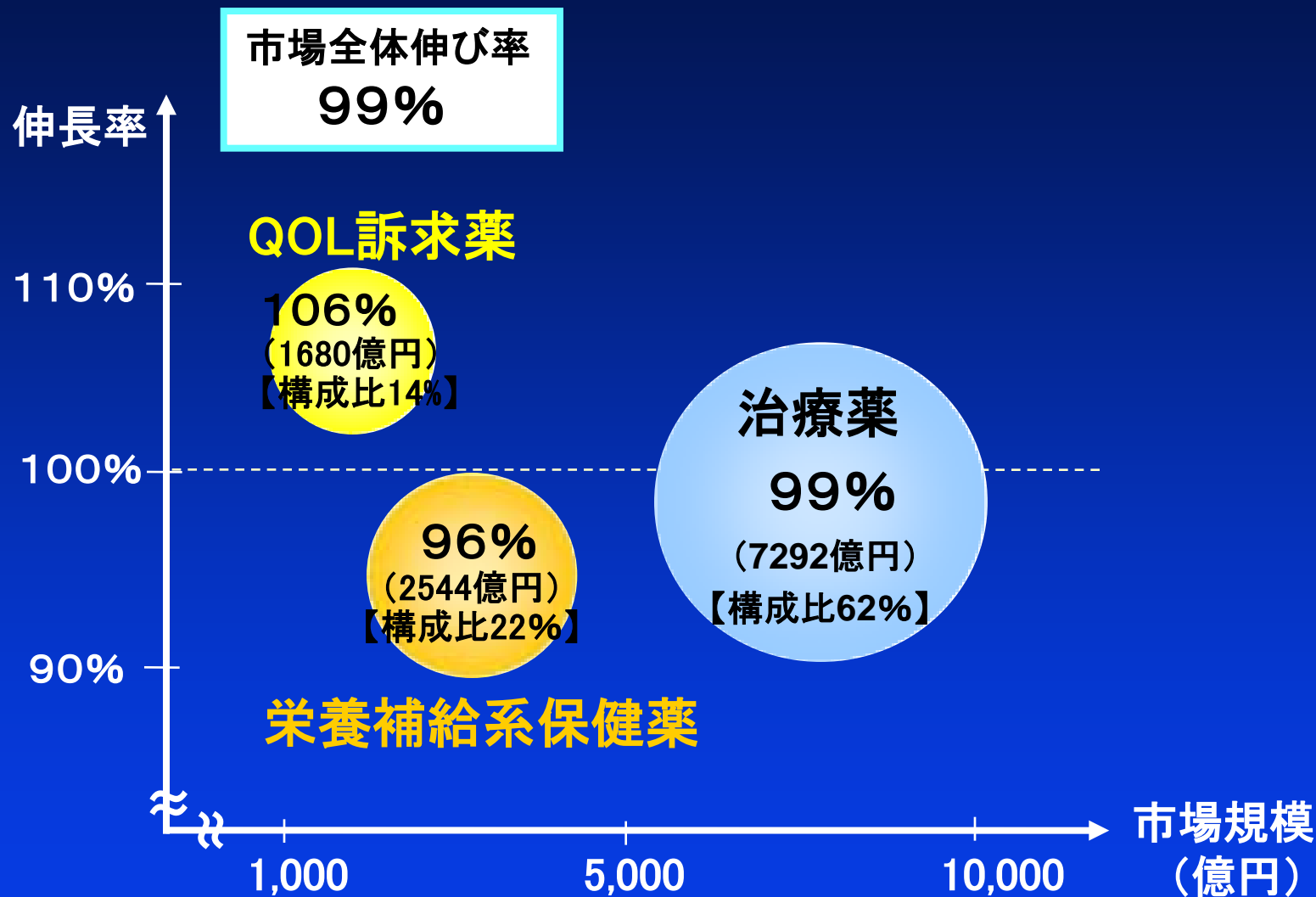
<p><b>売上高</b> (+66億円)</p>	<p><b>セルフメディケーション事業</b> (+85億円) OTC薬等 +27億円(大正) ビオフェルミン +55億円</p>	<p><b>医薬事業(▲19億円)</b> 大正富山医薬品 ▲3億円 ロイヤルティ ▲27億円 その他 ▲20億円 ビオフェルミン +31億円</p>
<p><b>営業利益</b> (+10億円)</p>	<p>売上総利益は50億円の増加 原価率は34.2%→33.9%と改善 ＜販管費 40億円増＞(ビオフェルミン分39億円を含む) 研究開発費 +28億円 広告宣伝費 +22億円 販促費 ▲14億円 人件費 +3億円</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損益は前期の▲5億円から▲46億円に 特別損益: のれん一時償却(129億円)、投資有価証券評価損(33億円) 持分変動損失(23億円)</p>		

# OTC医薬品 市場規模の推移

(SDI・SRIデータを基に当社で推計)



# 2008年度／2007年度 セグメント別伸び率



※伸び率：2007年度に対する2008年度の販売金額伸び率

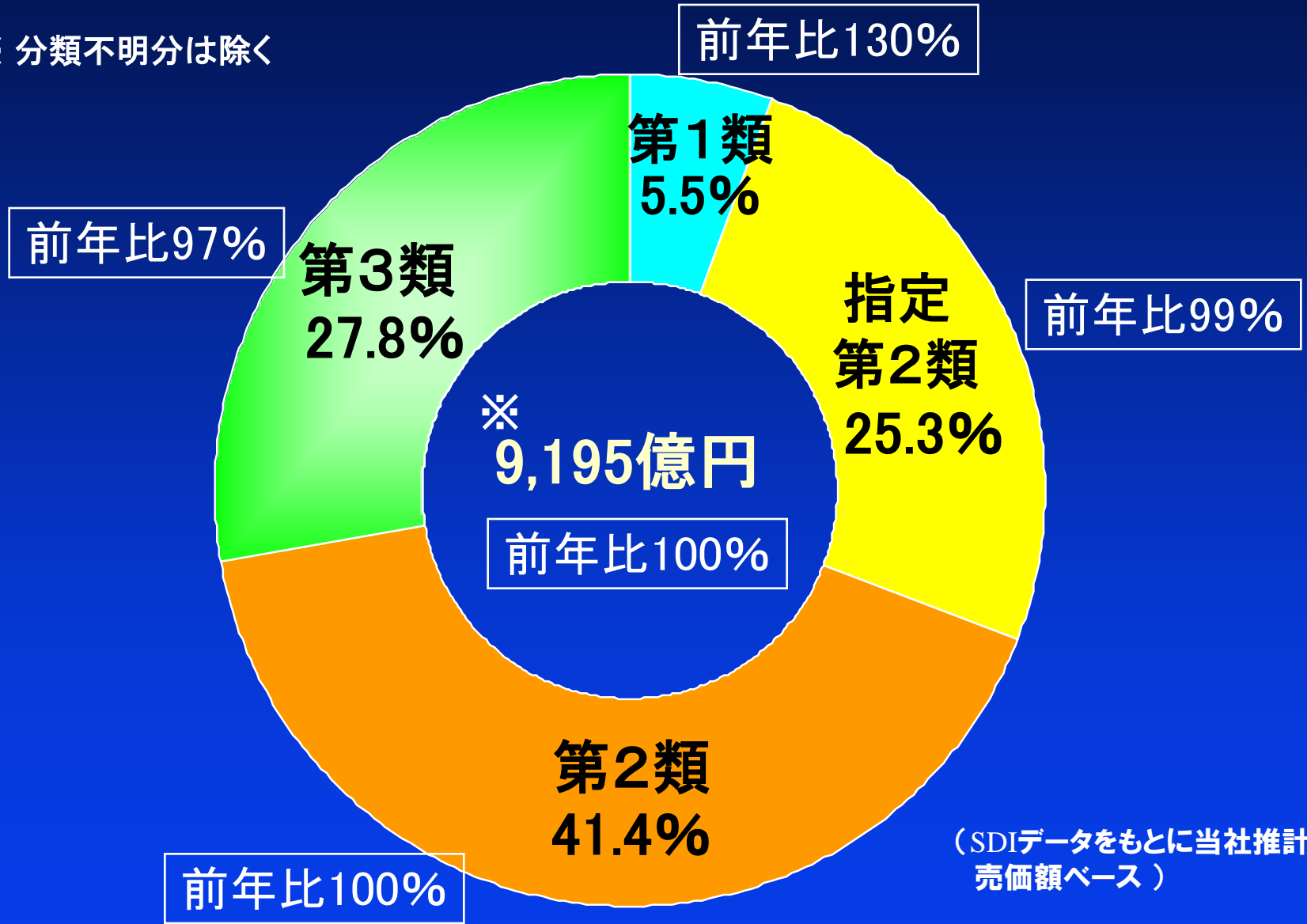
※円の大きさは、市場規模の大きさを表す

※指定医薬部外品を含む

(SDI・SRIデータをもとに当社で推計)

# OTC市場 分類別医薬品市場規模(2008年)

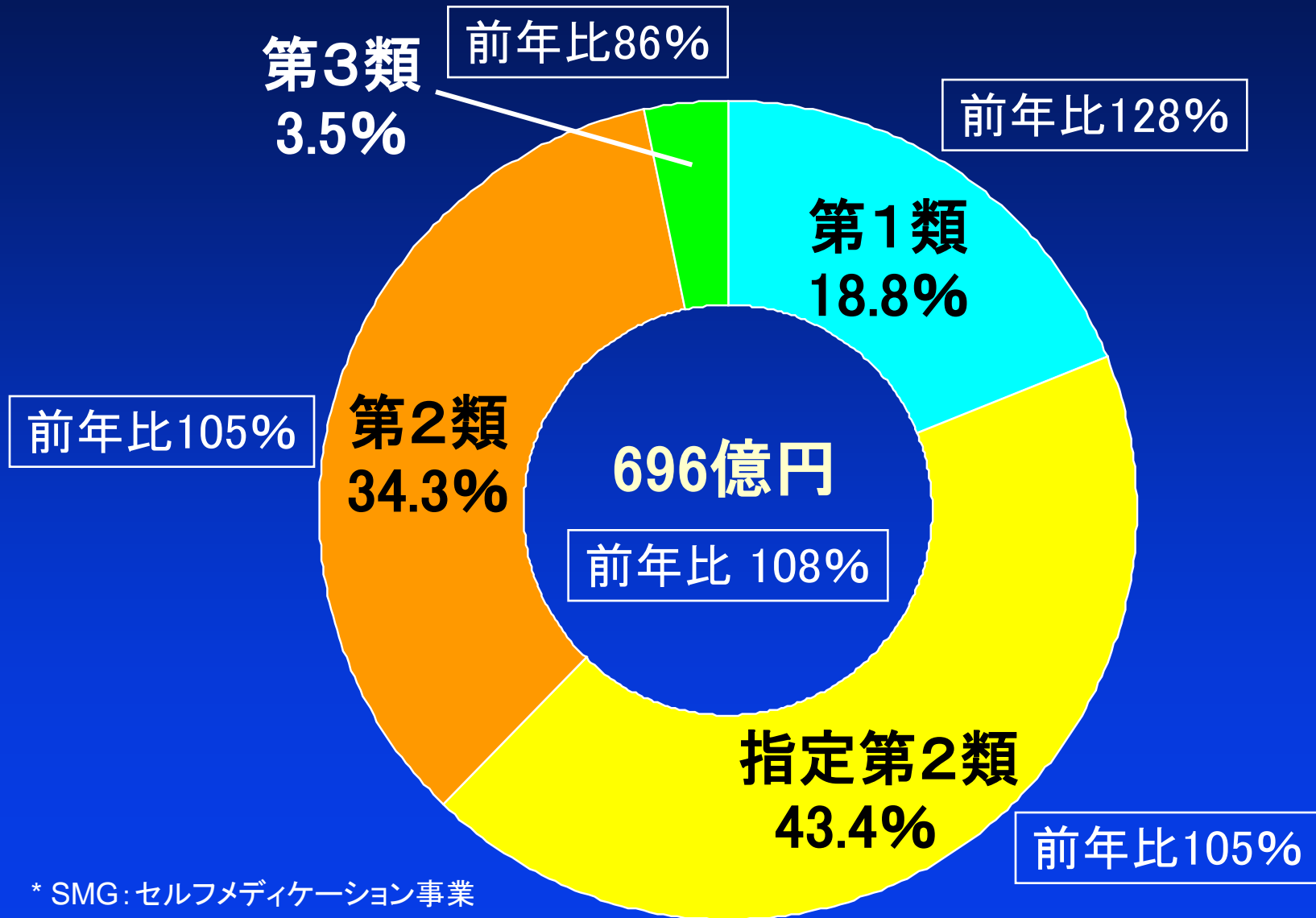
※ 分類不明分は除く



(SDIデータをもとに当社推計, 売価額ベース)



# 分類別 SMG\*医薬品売上実績(2008年度)



# 2009年度の展望



- ・ **セルフメディケーション事業**
  - － 第1類医薬品のさらなる強化に向けて
  - － リアップX5をはじめとする、新製品発売とその育成
  - － 新販売制度への対応
- ・ **医薬事業**
  - － 既存品の売上確保
  - － 新製品の育成
  - － 感染症領域でのシェア拡大

# 2009年度：連結業績の見通し



(億円)

	予想	前期比増減	
売上高	2,570	+8	+0%
SMG*	1,625	+14	+1%
医薬事業	945	▲6	▲1%
営業利益	340	▲39	▲10%
経常利益	390	▲9	▲2%
当期純利益	230	+142	+161%
EPS(円)	79.5		
(参考)			
大正富山医薬品売上高	820	+3	+0%

注：数字は億円未満四捨五入

\*SMG：セルフメディケーション事業

# 2009年度予想：売上高・利益の増減要因



(前期比増減額)

<p><b>売上高</b> (+8億円)</p>	<p><b>セルフメディケーション事業</b> (+14億円) OTC薬等 +12億円 (うちビオフェルミン ▲3億円)</p>	<p><b>医薬事業(▲6億円)</b> 大正富山医薬品 +3億円 ロイヤルティ収入 ▲10億円 ビオフェルミン +1億円</p>
<p><b>営業利益</b> (▲39億円)</p>	<p>売上総利益 ▲10億円 原価率 前年の33.9%→34.4% &lt;販管費 30億円増&gt; 研究開発費 +12億円      広告宣伝費 +8億円 販促費 +12億円      人件費 +8億円 ビオフェルミンのれん償却額 年1.35億円</p>	
<p>営業外損益:持分法投資損失 13億円を織り込む</p>		



# ブランドおよび製品別売上高

(億円)

	08年度	前期比 増減額	09年度	前期比 増減額
リポビタンシリーズ	748	▲18	729	▲19
パブロンシリーズ	254	+21	252	▲2
リアップシリーズ	114	+14	130	+16
胃腸薬シリーズ	44	+2	45	+1
ナロンシリーズ	44	+1	47	+3
コーラックシリーズ	39	+3	39	0
リビタシリーズ	26	+3	29	+3
クラリス	240	▲15	238	▲2
パルクス	112	▲3	112	0
ジェニナック	37	+4	51	+14
ゾシン(タゾシン含む)	40	+27	54	+14

注: 数字は億円未満四捨五入



# 医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



## 国内

(2009年5月15日現在)

	特長 予定適応症	開発形態	オリジン
承認			
クラリス錠200 (経口)	マクロライド系抗生物質 非結核性抗酸菌症(肺感染症) <適応追加、2008年8月29日承認>	アボット ジャパン 共同	大正製薬
フェーズ3			
CT-081* (経口)	活性型ビタミンD <sub>3</sub> 誘導体 骨粗鬆症	中外製薬共同	中外製薬
フェーズ2/3			
CT-064** (注射)	ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

\*CT-081: 中外製薬における開発コードはED-71

\*\* CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2009年5月15日現在)

	特長 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
TT-063 (外用)	エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
NT-702 (経口)	気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に 伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
CT-064* (経口)	ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
TS-071 (経口)	SGLT阻害作用 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬
TS-022 (外用)	アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬
パルクス (注射)	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 <適応追加>	自社	大正製薬／ 田辺三菱製薬

\*CT-064: 中外製薬における開発コードはR484



# 医療用医薬品：新薬パイプライン(3)



## 海外

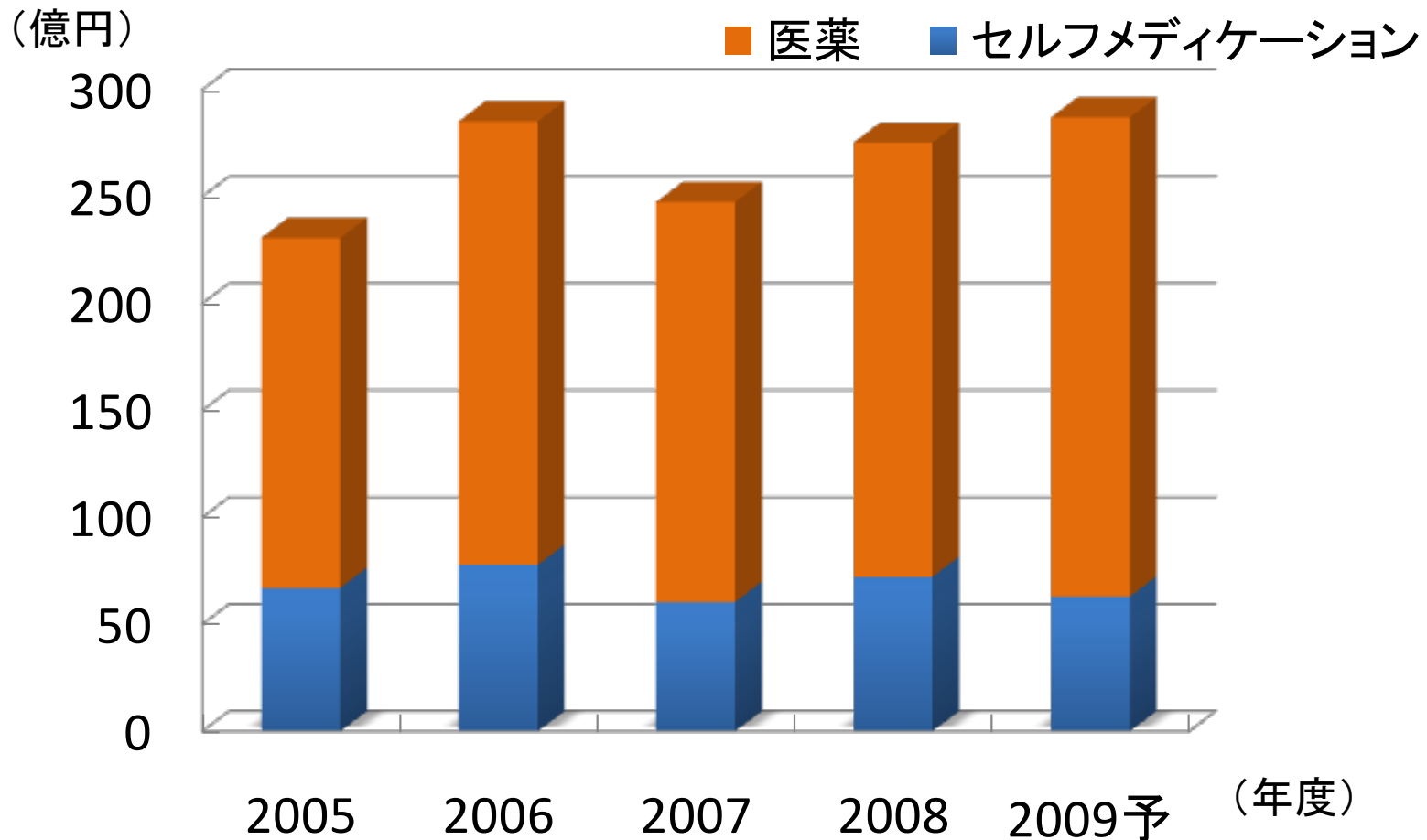
(2009年5月15日現在)

	特長 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
TS-022 (外用)	アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬

# 研究開発費の動向



2009年度は増加の見通し

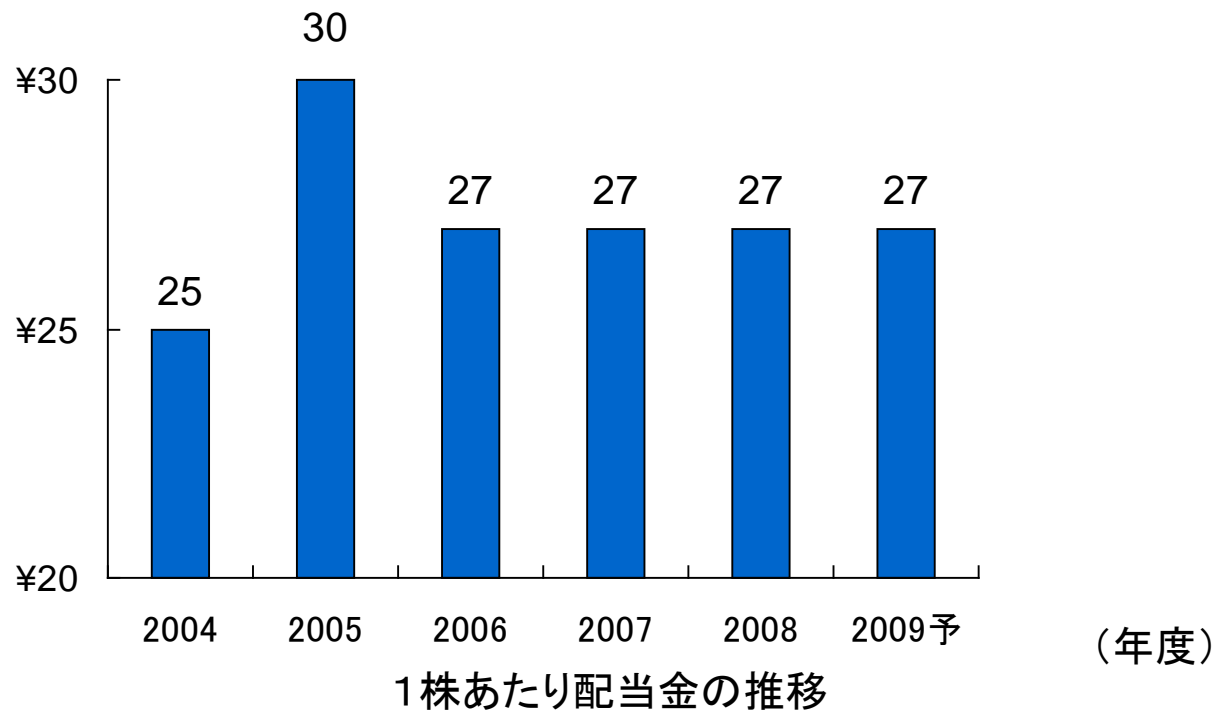


# 株主還元・自己株式



- ・ 配当

- 従来と方針は変わらず、2009年度も年27円/株を継続予定



- ・ 自己株式：2000万株を消却予定（6月）

- （消却前の発行済株式総数に対する割合6.24%）

# 中期連結業績目標



- ・ 2012年度の目標達成に向けて
  - － 2012年度売上高 2,900億円
    - ・ セルフメディケーション事業 1,800億円
    - ・ 医薬事業 1,100億円
  - － 2012年度経常利益率 15%前後